

## 14. 芸術文化学部

I	芸術文化学部の教育目的と特徴	14-2
II	「教育の水準」の分析・判定	14-6
	分析項目 I 教育活動の状況	14-6
	分析項目 II 教育成果の状況	14-20
III	「質の向上度」の分析	14-32

## I 芸術文化学部の教育目標と特徴

### 1 芸術文化学部の概要

富山大学芸術文化学部は、富山県内の3国立大学（(旧)高岡短期大学、(旧)富山大学、(旧)富山医科薬科大学）の再編統合を機に、平成17年10月に従来の美術系学部とは一線を画した学部として1学部1学科5コース制（入学定員115名）で新設され、現在に至っている（資料1-1-1）。

資料1-1-1 芸術文化学部の組織図及び学生数（定員・現員）

(平成27年5月1日現在)					
芸術文化学部 芸術文化学科 入学定員 115人					
履修コース	1年生	2年生	3年生	4年生	計
造形芸術	16	17	17	21	71
デザイン工芸	30 ①	31	30	37	128 ①
デザイン情報	30	33 ①	32 ①	41	136 ②
建築デザイン※（旧 造形建築科学）	20	22 ①	21 ①	25	88 ②
芸術文化キュレーション※（旧 文化マネジメント）	22	21	20	21 ②	84 ②
合 計	118 ①	124 ②	120 ②	145 ②	507 ⑦

※ H 27. 4 からコース名称を変更  
○内は留学生数で内数 (出典：平成27年度学校基本調査)

### 2 芸術文化学部の教育目標

富山大学は中期目標において、表Aのような基本的な目標を掲げている。

表A 富山大学中期目標における基本的な目標

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与する。  
(出典：富山大学概要)

本学部では、この目標を達成するために、特に芸術文化と人間社会の調和的発展を目指して、表Bに示す教育目標及び表Cに示す学位授与方針を定めている。

表B 芸術文化学部の教育目標

芸術文化の「創り手」、「使い手」、「つなぎ手」を育成する。

芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会との関わり方を見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようとする自発的に行動する意欲的な人材の育成を目的としています。  
(出典：芸術文化学部ウェブサイト)

人間の創造活動や自然環境などの、幅広い理解力と素養を持った社会人を育成するため、専攻分野を越えて学べる教育システムを採用し、芸術文化を中核とした専門教育を目指しています。また、創造活動の成果は、それだけで存在できるものではなく、創り手と使い手との良い関係を作るつなぎ手がなければ存在できません。

そのため「芸術文化の創り手」を養成するとともに、芸術文化を理解し社会で活かす「芸術文化の優れた使い手」、広く社会に芸術文化の定着と地域振興を進める「芸術文化のつなぎ手」を養成しています。  
(出典：芸術文化学部入学者受入方針)

表C 芸術文化学部の学位授与方針

- ・「創造力」：芸術文化に関わる感性・知識・技術に裏打ちされた創造性を発揮して、豊かな社会の発展に寄与する「もの」や「こと」を創り出す能力
- ・「責任感」：社会の一員として自立し、遭遇する環境において、問題を発見し、調べ、解決策を見だし、実践できる能力
- ・「コミュニケーション能力」：外国語の読み書き及び伝達能力と他者の考えや異文化の理解、多様な情報を取捨選択し、分析・活用できる能力
- ・「幅広い知識」：豊かな人間性と人類知継承のための、自然・社会・文化・人間についての教養
- ・「専門的知識」：美術、工芸、デザイン、建築、芸術文化キュレーションにかかわる芸術文化の専門的基礎知識の上に、それぞれの専門分野で深めた、これからの社会における芸術文化の調和的発展に貢献できる能力

(出典：芸術文化学部学位授与方針)

### 3 教育の特徴（特色）

本学部の教育目標のもと、次に示す特徴ある教育を行っている（資料1-1-2）。

- ① 多様性を重視した入試方法（資料1-1-3）
- ② 専門分野を越えた融合教育による総合的資質の育成
- ③ キャリアデザインに応じた自由な授業科目の履修（横断型履修制度）
- ④ メンター制度によるきめ細かな指導と学生ニーズの把握
- ⑤ 運営費交付金「特別経費」の採択（大学院との連携）
- ⑥ 地域と連携した芸術文化活動のモデル構築

#### 資料1-1-2 芸術文化学部の教育の具体的特徴

##### ① 多様性を重視した入試方法

全ての入試に面接を取り入れて受験生の意欲と個性を評価し、また、入試方法にディスカッション力を求める検査だけでなく小論文による検査を導入し、多様な人材を受け入れる学生構成を目指している。

##### ② 融合教育による総合的資質の育成

専攻分野を越えて学べる教育システムとして、学生がコースの垣根を越えて科目履修ができるようコース必修科目を極力少なくすること（コース間の融合）、更に専門教育科目においても幅広い分野の科目を履修するように誘導した履修モデルを作成して、学生の履修指導にあたること（諸学問の融合）、地域連携授業を通して社会との繋がりをもった実践型教育を行うこと（地域社会との融合）による融合教育を実施している。

融合教育の目的は、複雑化する社会を、今後、担っていく学生達に、異なった専門や立場からの社会課題の認識方法を知り、幅広い判断能力を与えるためである。

※ 地域連携授業とは、「地域の現実的な課題をテーマとした授業、地域の作家、職人、デザイナー等から指導を受ける授業など、地域の関係者と協力して進める授業」である。

（平成27年度は9科目開講した。）

##### ③ キャリアデザインに応じた自由な授業科目の履修（横断的履修制度）

融合教育により、学生のキャリアデザインに応じた幅広い科目履修と社会経験ができる体制を採っている。更に卒業研究・制作では、指導教員を全ての学部教員の中から選ぶことができ、融合教育から得た最終目標としての専門分野に対応する教員に師事することができるよう横断的履修制度としている。

##### ④ メンター（助言教員）制度によるきめ細かな指導と学生ニーズの把握

教員一人が1学年5～6名の学生を担当し、入学から卒業までの4年間、履修相談や進路相談など大学生活全般にわたって助言指導する。また、メンター教員は、学生との面談結果を報告書として、必ず、報告し、その集計結果は、学部運営会議に報告される。このように

して、常に学生の多様なニーズを的確に把握し、教育課程の改善に繋げている。

⑤ 「特別経費」(プロジェクト分) <高度な専門職業人の養成や専門機能の充実>

『大学院と学部が連携して、地域の課題と取り組む特別経費事業「伝統文化を起点とした実践的地域連携教育」(愛称: つままプロジェクト)』が採択(2014年度(平成26年度)まで)され、その活動を継続する形で地域連携授業の増加などの効果を上げている。

⑥ 地域と連携した芸術文化活動のモデル構築

芸術文化学部設立と同時に、高岡市、末広開発株式会社、協同組合高岡ステーションデパート、富山大学芸術文化学部で実行委員会を組織して『芸文ギャラリー』を設置した。このギャラリー施設は、学生(卒業生を含む)・教員の作品発表、学生のキュレーション実務の体験、学生間や地域の芸術家・職人との交流拠点であり、実践的地域連携教育施設として、現在まで運営されている。(出典: 芸術文化学部総務課作成)

資料 1-1-3 入学者選抜方法

特別入試		<b>I 類</b>	<b>II 類</b>
		造形芸術・デザイン工芸・デザイン情報コース	デザイン情報・建築デザイン・芸術文化キュレーションコース
		実技検査 ・鉛筆デッサン(3時間)	小論文
		面接	面接
(推薦入試、帰国子女特別入試、社会人特別入試)			
一般入試	前期	<b>I 類</b>	<b>II 類</b>
		造形芸術・デザイン工芸・デザイン情報コース	デザイン情報・建築デザイン・芸術文化キュレーションコース
		実技検査 ア) 鉛筆デッサン(6時間) イ) 鉛筆デッサン(3時間) 及び、構想表現(3時間)	小論文
		面接 大学入試センター試験 ・3教科3科目 又は 3教科4科目	面接 大学入試センター試験 ・5教科6科目 又は 5教科7科目
後期	<b>募集区分 a</b>	<b>募集区分 b</b>	
	全コース	全コース	
	実技検査 ・鉛筆デッサン(3時間)	面接	
	面接 大学入試センター試験 ・2教科2科目 又は 2教科3科目	大学入試センター試験 ・3教科3科目、3教科4科目 又は 2教科3科目	
※特別入試、一般入試の面接は書類審査も含まれます。			

(出典: 芸術文化学部ウェブサイト)

[想定する関係者とその期待]

① 受験生・学生の期待

受験生は、芸術文化に興味を持ち、企画力やデザイン力を高め、それを人々の豊かな生活の創造に貢献させる希望を持っている。

また、学生は卒業後の就職に期待を抱いているが、卒業生の就職率は90%から95%で推移しており、就職先も全国に渡っている(資料2-1-1)。

② 地域社会（富山県・高岡市等）の期待

富山県は、銅器、漆器、木彫等の伝統工芸産業や、アルミ、ガラス、薬品等の産業、そして衣食住、祭事等に関わる伝統文化、更に立山連峰に代表される観光資源を数多く有している。これら産業、伝統文化、観光に関わる企業及び行政から、「創造力・デザイン力のある人材の育成」、「伝統技能を継承し、新たな世界を開拓できる後継者の育成」、「工学的・科学的知識を持って住環境・生活環境を創造できる人材の育成」、「伝統文化の価値を再評価し、新たに発展できうる企画力を持った人材の育成」に強い期待が寄せられている。

③ 地域住民からの期待

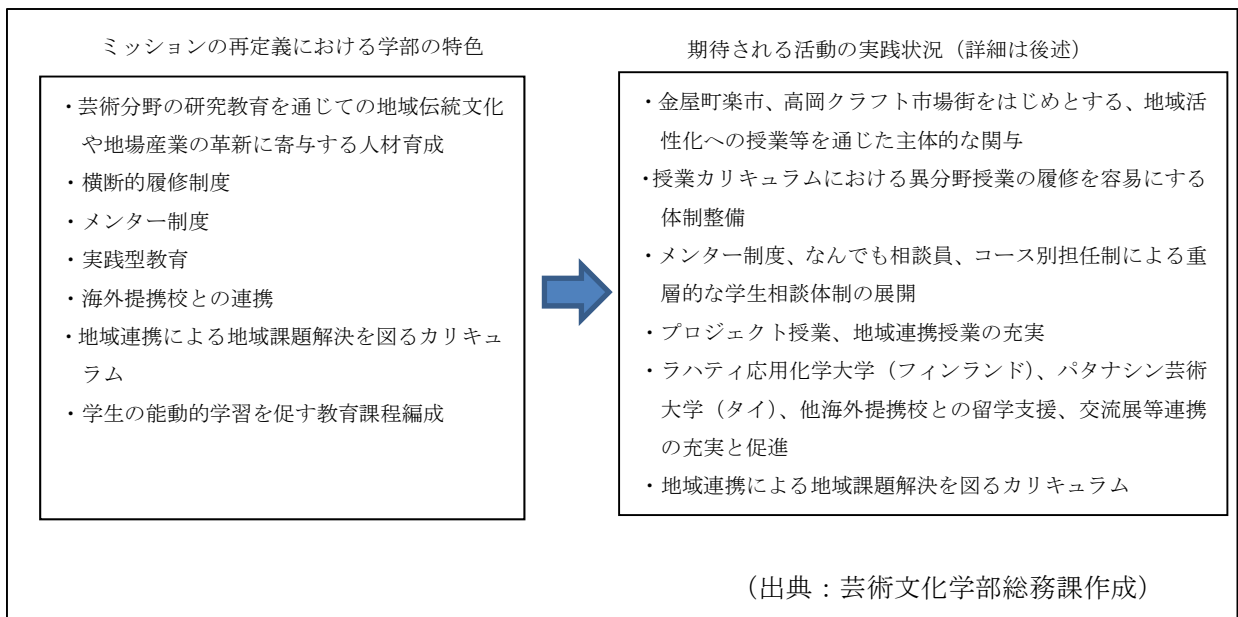
旺盛な学習意欲を持つ地域住民も関係者として想定し、これら関係者からは、「教育・研究成果の還元」、「生涯教育、社会人教育」に多様な期待が寄せられている。

④ 富山大学全体の創造的芸術教育に関する期待

大学内の専門組織として、芸術的素養に関する教育について期待されている。

これらの期待は、ミッションの再定義とリンクしている（資料1-1-4）。

資料 1-1-4 ミッションの再定義における学部の特徴と教育実例項目



II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

本学部は1学科5コース制を採用している(資料1-1-1)が、本学部の教育目標を実現するため全教員が研究部に所属し、連携や情報交換を教育に活かす体制を構築している。また、コース毎の専門教育に対する責任と適切な指導を実現するため、各コースにバランスよく担当教員を配置するとともに、全教員が参加する教育部会議において学部全体の教育上の諸課題について検討している。専任教員数は、平成27年5月現在で教授19人、准教授18人、講師10人、助教1人であり、大学設置基準を十分満たし、かつ、学士課程を遂行するために必要な専任教員が確保されている(資料1-2-1)。

特に、新規採用人事においては、融合教育と社会と連携した教育を強化するため、多くの実務経験者(32人/48人中、66.7%)を採用している(資料1-2-2)。これにより、卒業後の実社会の経験に基づく学生への助言、地域連携授業の推進、就職に関する的確な相談並びに幅広い人脈に裏打ちされた社会動向情報の提供がなされている。

なお、教員の採用・昇任に当たっては、論文系・作品系など専門分野ごとに職位別評価基準を定め、教育研究水準の維持に努めている。

資料1-2-1 芸術文化学部 教員配置状況

芸術文化学部

- ├ 研究部 ─ 研究部会議 (平成27年5月1日現在)
- ├ 教育部 ─ 教育部会議 ─ 主担当コース
- └ メンターリーダー会議 ─▶ 学部運営委員会

全教員がメンターとなって8グループに分かれ、そのグループのリーダー教員が集まって、各メンター教員からの学生との面談結果報告書を集計し、学部運営委員会に報告する。

主担当コース別教員数 (単位:人)

コース	教授	准教授	講師	助教	合計
造形芸術	5	2	2	0	9
デザイン工芸	2	4	4	0	10
デザイン情報	2	6	1	1	10
建築デザイン	6	2	1	0	9
芸術文化キュレーション	4	4	2	0	10
合計	19	18	10	1	48

(出典: 芸術文化学部総務課作成)

資料1-2-2 教員に占める実務経験者の数

(平成27年5月1日現在) (単位:人)

	作家・制作活動	会社経営	会社勤務	公務員	実務経験なし	計
教授	4	3	4	5	3	19
准教授	0	0	7	4	7	18
講師	1	0	4	0	5	10
助教	0	0	0	0	1	1
合計	5	3	15	9	16	48

(出典: 芸術文化学部総務課作成)

## 富山大学芸術文化学部 分析項目 I

常に教育改善を進めていくため、他大学のFD活動状況、メンター面談による学生ニーズ、学生による授業評価アンケート結果、4年間の教育効果を検証するための卒業時アンケート等について、アンケート結果を受けてFD研修会（資料1-2-3）及び毎月の教育部会議で報告・分析・改善策の検討を行っている。これにより、平成19年の学部創設以来、2度のカリキュラム改正を行い、現行の教育課程に対するPDCAサイクルを機能させ、年を追うごとに授業アンケートの評価が向上するなど効果を上げている。

資料1-2-3 H23～H27年度 学部・大学院合同FD開催状況

開催年度	開催日時	参加者数	テーマ
H27年度	1月27日	38名	学生評価の高い授業を参考として、授業改善を図る
	9月30日	35名	卒業時アンケート結果を利用した教育体制改善検討
H26年度	1月28日	46名	学生評価の高い授業を参考として、授業改善を図る
	9月24日	45名	学生評価の高い授業を参考として、授業改善を図る
H25年度	3月26日	34名	学生評価の高い授業を参考として、授業改善を図る
	6月26日	45名	学生評価の高い授業を参考として、授業改善を図る
H24年度	1月23日	44名	学生評価の高い授業を参考として、授業改善を図る
	4月25日	44名	学生評価の高い授業を参考として、授業改善を図る
H23年度	1月25日	45名	学生評価の高い授業を参考として、授業改善を図る
	7月13日	47名	学生評価の高い授業を参考として、授業改善を図る

※平成22年度のデータなし (出典：芸術文化学部総務課作成)

平成23年度からのFD研修会では、学生による授業評価アンケートの結果で「特に評価が高かった授業」の担当教員による当該授業の工夫などの発表を受け、更に平成26年度には、当該授業11件の授業参観を実施し、FD活動を積極的に推進した。

なお、改善を示す最も顕著な事例としては、学位授与方針に沿った内容をどの程度身につけたかを、社会人になった卒業生に対して調査した、平成26年度のアンケート結果(資料1-2-4)の一部に見られる問題点に対処したことがあげられる。

資料1-2-4 平成26年度 アンケート結果（平成22・23・24年度卒業生、回数率19.2%）

質問 外国語の読み書き及び伝達能力と他者の考えや異文化の理解、多様な情報を 取捨選択し分析・活用できる能力を身に付けることができましたか (回答率)	
・大いに身に付けた	2%
・少し身に付けた	26%
・少ししか身に付けられなかった	41%
・全く身に付けられなかった	32%

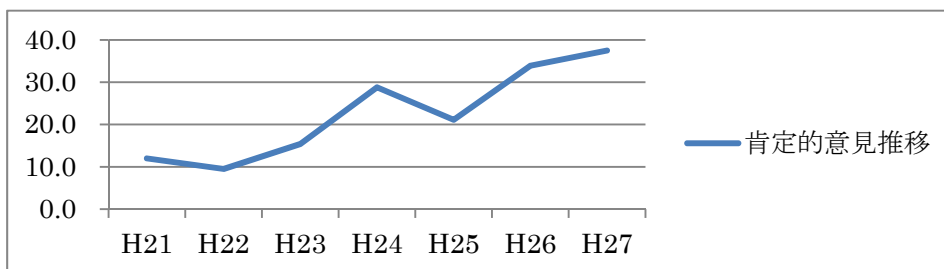
(出典：平成26年度卒業生アンケート)

同様の傾向は卒業時アンケート結果でも見られ、学生は、外国語能力の向上が課題であることが分かった(資料1-2-5)。

そこで、これらアンケート結果を踏まえ、教育部会議で改善策を議論し、外国語でのコミュニケーションスキルの向上が急務であると結論付け、「専門教育科目における英語指導プログラム」による英語教育の改善・充実を図った。このプログラムは、平成27年度から直ちに実施し(資料1-2-6)、同時に卒業要件における外国語教育取得単位数を1単位増加させ、語学教育の充実を図った。

資料 1-2-5 過去 7 年間の卒業時アンケートにおける質問事項「外国語能力について」の結果

	外国語コミュニケーションスキルに関する満足度					肯定的意見の比率
	A: そう思う	B: どちらかと言えそうですが	C: どちらとも言えない	D: どちらかと言えそうですが思わない	E: そう思わない	
H21	2.7	9.3	20.0	32.0	28.0	12.0
H22	1.1	8.4	27.4	33.7	27.4	9.5
H23	2.6	12.8	34.6	50.0	0.0	15.4
H24	3.8	25.0	25.0	19.2	26.9	28.8
H25	3.8	17.3	32.7	26.9	28.8	21.1
H26	11.6	22.3	0.0	43.8	21.4	33.9
H27	10.7	26.8	0.0	42.9	18.8	37.5



(出典：芸術文化学部総務課作成)

資料 1-2-6 専門教育科目における英語指導プログラム

English for Art  
専門教育科目における英語指導プログラム

I. 目的と概要

芸術関連の英語運用能力向上のため、既存の専門教育科目のなかから英語指導を希望する科目を募り、科目担当教員と英語担当教員が連携して指導を行う。

II. 指導内容

1) Vocabulary

当該分野で使用される用語の英語での言い方の紹介、使い方の指導。

2) Presentation

制作した作品についての発表を英語でおこなう場合の指導。(原稿作成、ポスター作製、発表における発話や、ジェスチャーも含めたスピーチ技術の点検。)

3) Developing Portfolios

英語版ポートフォリオの作成指導。

III. プログラムの運用方法

1) 専門教育科目のなかから「英語指導プログラム」を希望する科目を募る。

希望する教員は申込用紙を提出して申請する。

2) 科目担当教員と英語担当教員が協同でシラバスを作成する。

\*年間 6 科目 (前期 3 科目、後期 3 科目) を上限とする。

\*1 科目のなかで本プログラムに費やす時間は、3 コマを限度とする。

\*英語教員は、正式に「授業担当者」となり、シラバス、時間割表に名前を表記する。

科目決定までの流れ

① 教務委員長 (学務チーム) が、全教員に希望申請手続きの連絡と用紙の配布

② 科目担当教員が希望用紙を学務チームに提出 (前・後期科目とも、前年度 1 月上旬から中旬頃まで)



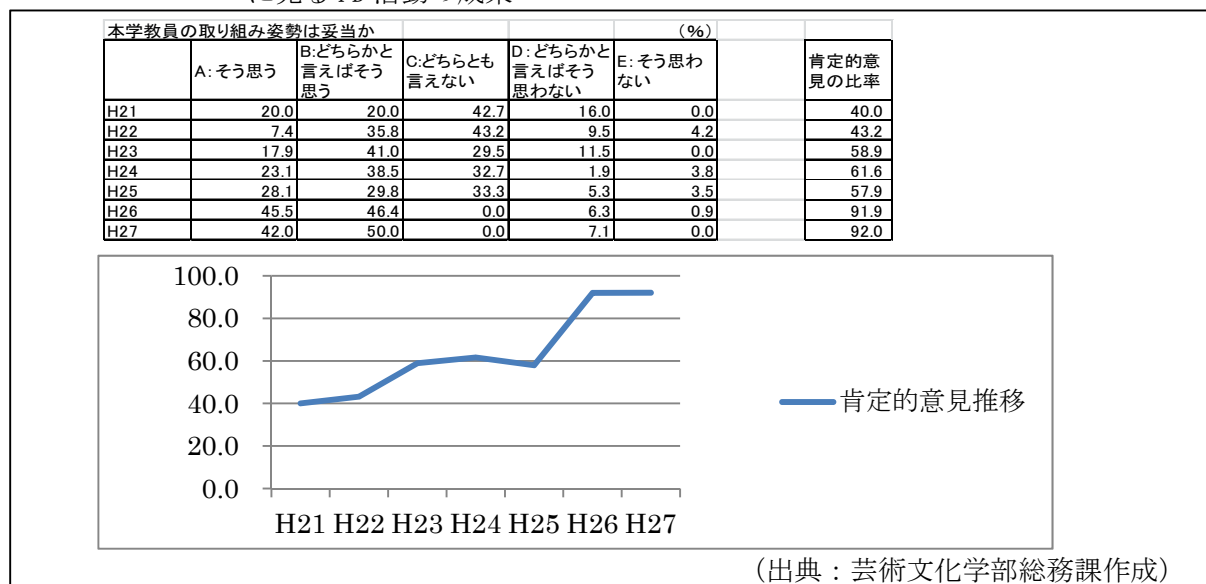
- ③ 学務チームが英語担当教員に科目決定の要請（1月末）
- ④ 英語担当教員が科目と担当者の割り振りを決定（1月末～2月第1週）
- ⑤ 教務委員会で審議（科目・決定理由含む）、承認（2月第1週）
- ⑥ 教務委員長（学務チーム）が、希望者に結果報告（2月第1～第2週、教授会前）
- ⑦ 教授会で報告（2月第2週）
- ⑧ 英語担当教員と科目担当教員が協同でシラバス作成（3月上旬まで）

（出典：学部教務委員会委員長から教員への申請案内文）

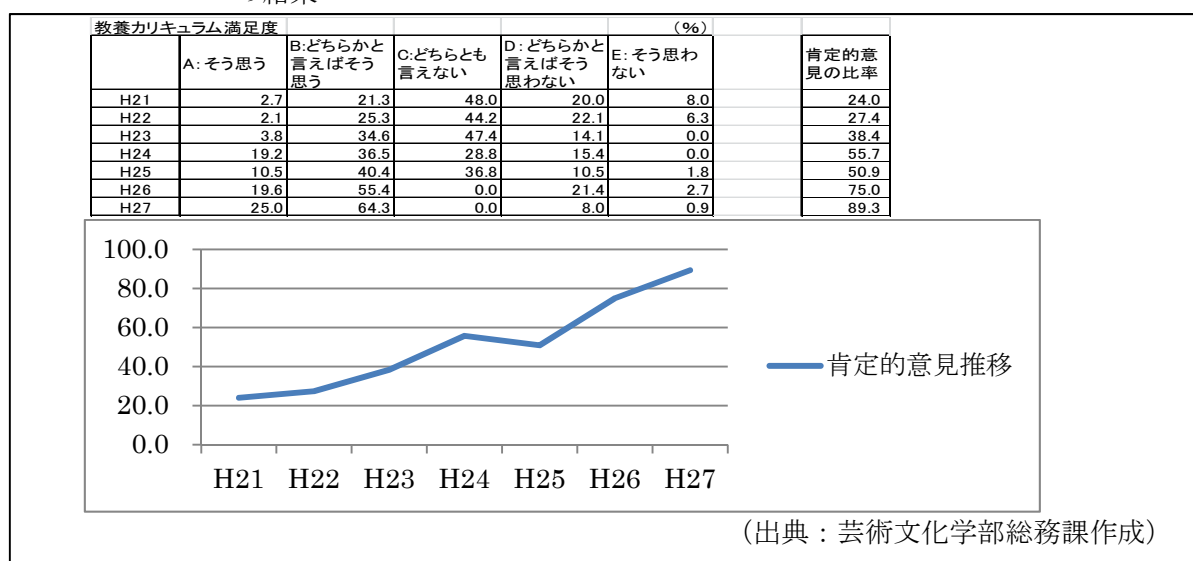
過去6年間の卒業時アンケートにおける質問項目「教員の授業への取組み姿勢について」の結果を見ると、年々、悪い評価Dから良い評価Aへの分布に移行していることから、こうしたFD活動の成果は着実に向上している（資料1-2-7）。

また、「教養教育及び専門教育のカリキュラムに対する満足度について」も、良い評価Aへの分布に移行していることから、在学生のニーズに答えていることが分かる（資料1-2-8）。

資料1-2-7 過去7年間の卒業時アンケート「教員の授業への取組み姿勢について」結果に見るFD活動の成果



資料1-2-8 過去7年間の卒業時アンケートにおける質問項目「授業の満足度について」の結果

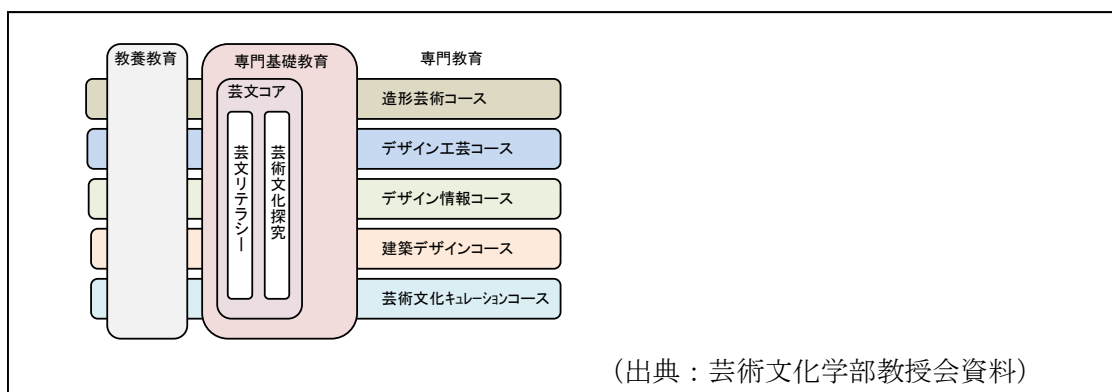


上記以外にも、

- ・他キャンパスとの英語教育の共通化に向けた検討WG (H26～)
- ・成績異議申立制度の実施 (H25～)
- ・第3次カリキュラムの実施 (H26～)
- ・プロジェクト授業の単位化 (H26～) 及び地域連携授業の開設 (H26～) (資料1-2-11)
- ・担当科目数の目安設定
- ・芸文コア科目 (芸文リテラシーは全教員が担当、芸術文化探究の開設(H27～)) (資料1-2-9、10)
- ・職員向け英語教育プログラムを実施 (H27～)
- ・教養教育への貢献 (学芸員科目の他学部開講)
- ・外部組織・他大学との連携 (富山ガラス工房)
- ・社会人・留学生の入学促進 (社会人入試、私費外国人留学生入試の枠設定)
- ・職員の業務能力の向上 (安全講習会の開催)
- ・卒業生アンケート実施
- ・学外資金を利用した教育改善・改革 (芸文ギャラリーの利用、金屋町楽市の推進等) (資料1-2-12)
- ・教育情報の発信 (SNS 開設、学部案内の充実) (資料1-2-13)
- ・国際的な取り組み (提携校との交流展、事業連携) (資料1-2-14)
- ・公開講座・オープンクラスの取組 (資料1-2-15)

などにも積極的に取り組んでいる。

#### 資料1-2-9 芸文コアの位置づけ



#### 資料1-2-10 芸文コア (芸文リテラシー、芸術文化探究) の取組状況

- 平成27年度 芸文リテラシー 授業計画 (授業の形式、スケジュール等) /Class schedule 2015
  - 第1回：芸文の特色：融合教育と地域連携教育 (4/13 学部長)
  - 第2回：自己紹介 (4/20 学部長、副学部長)
  - 第3回：伝統から革新 (4/27 学部長、斎藤、清水)
  - 第4回：和の心 (5/7 外部講師：茶道関係者)
  - 第5回：創造を楽しむ (5/11 学部長、中村、平田)
  - 第6回：地域とデザイン (5/18 学部長、沖、渡辺)
  - 第7回：社会が求める価値 (5/25 外部講師：定村俊満氏)
  - 第8回：暮らしやすさをつくる (6/1 学部長、丸谷、小松裕子)
  - 第9回：芸術を研究する (6/8 学部長、三船、三宮)
  - 第10回：情報と知識：図書館活用法 (6/15 学部長、松政、松浦)
  - 第11回：文化資源とキュレーション (6/22 学部長、島添、奥)
  - 第12回：突撃！芸文生 (6/29 学部長、羽田、院生or 卒業生 [調整中])
  - 第13回：コース別討論 (1) (7/6 各コース座長、教務委員、リテラシー教員)

- 第14回：コース別討論（2）（7/13 各コース座長、教務委員、リテラシー教員）
- 第15回：コミュニケーションを知る（7/27 外部講師：平田オリザ氏）
- 第16回：全体討論会（8/3 全教員）

○ 平成27年度芸術文化探究

富山大学芸術文化学部 平成27年度プロジェクト授業 「芸術文化探究」  
一般聴講可（無料）

芸術文化の本質を求めて

「もの」から「こころ」へ、質を重視する社会にとって、生活や産業に芸術文化の成果を活かしていくことが重要と考えられています。しかし、現実にはそれを職業として成立させていくための知見や実績が不足しており、十分な社会的理解が得られていないという課題があります。本授業では、絵画や工芸、デザインやキュレーションという行為を、社会が必要と認めるために如何に取り組むべきかについて、さまざまな事例を通じて学びます。表現の専門にとらわれず、創造的行為を社会に展開していく上で、共通に必要な発想法、思考法、実践方法について理解を深めます。

01 11月12日(木) 永田哲也 Tetsuya Nagata 美術作家

02 11月17日(火) 「デザインって何？」 三木健 Ken Miki グラフィックデザイナー

03 11月26日(木) 「鉄道写真家というお仕事」 一徹が写真で伝えたいことー 中井精也 Seta Nakai 写真家

04 12月3日(木) 「大伴家持の融中秀時」 坂本信幸 Nobuyuki Sakamoto 高岡市万葉歴史館館長

05 12月10日(木) 「40年の伝統を継ぐ」 城崎神絵 16世 小原好喬 Yoshitomo Ohara 漆芸家

06 1月12日(火) 「アートによる地域創生」 北川フラム Furamu Kitagawa アートディレクター 大地の芸術祭・瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター Photo: Junya Rida

07 1月19日(火) 「地域と連携」 水野一郎 Ichiro Mizuno 建築家・金沢工業大学教授

開催時間(全回)：18:15～19:45 (開場 18:00)  
会場：高岡キャンパス講堂 (高岡市二期 180)

講師のプロフィールは、WEBでご確認ください。

富山大学芸術文化学部  
お問い合わせ：芸術文化学部 総務課 総務・研究協力チーム Tel. 0766-25-9138 shouga@adm.u-toyama.ac.jp

(出典：芸術文化学部教授会資料)

資料1-2-11 プロジェクト授業・地域連携授業 (H27 実施分)

No.	科目名	開講年次	種別
1	まちづくり	2	地域連携授業
2	ジュエリー制作 A	2	地域連携授業
3	絵画 B	3	地域連携授業
4	社会における文化マネジメント	3	地域連携授業
5	絵画技法・材料	1	地域連携授業
6	家具デザイン・制作	3	地域連携授業
7	クラフト品制作	3	地域連携授業
8	プロダクトデザイン実習応用	3	地域連携授業
9	サインデザイン演習	3	地域連携授業
10	地域プロジェクト実習 (金屋町楽市)	2	プロジェクト授業
11	Living Art in OHYAMA2015 プロジェクト実習	1	プロジェクト授業
12	空間分析	1	プロジェクト授業

(出典：芸術文化学部教授会資料)

資料 1-2-12 芸文ギャラリー活用状況

月	開催期間	企画展	大学	支出元	月	開催期間	企画展	大学	支出元		
4	4/1 (木) ~ 4/7 (火)	GEBUN PRIZE COLLECTION 2013 4/10~4/21		大学&芸ギャラリー	10	10/1 (木) ~ 10/6 (火)	うるしの一隅目	作家のひきだし展 創設第10/17,18	芸ギャラリー		
	10/8 (木) ~ 10/18 (火)										
	10/15 (木) ~ 10/20 (火)										
	10/22 (木) ~ 10/27 (火)										
	10/29 (木) ~ 11/3 (火)										
4/30 (木) ~ 4/30 (火)	雑貨屋 Tommy Dining 4/26~5/6	レンタル	11	11/2 (月) ~ 11/10 (火)	市川さん 個展	レンタル					
5/7 (木) ~ 5/12 (火)	企画A PAPP PIM	芸ギャラリー		11/12 (木) ~ 11/17 (火)							
5/14 (木) ~ 5/26 (火)											
5/21 (木) ~ 6/2 (火)											
5/28 (木) ~ 6/9 (火)											
6/11 (木) ~ 6/16 (火)											
6/18 (木) ~ 6/30 (火)	企画由 芸文CUPS		12	11/28 (木) ~ 12/1 (火)		大学					
6/25 (木) ~ 7/7 (火)	Gift	レンタル		12/3 (木) ~ 12/8 (火)	カレンダー展	芸ギャラリー					
7/2 (木) ~ 7/7 (火)				企画D(作家展)	芸ギャラリー	12/18 (木) ~ 12/15 (火)	雑貨屋 Tommy Dining	レンタル			
7/9 (木) ~ 7/14 (火)						コロナ	レンタル	12/17 (木) ~ 12/22 (火)			
7/16 (木) ~ 7/21 (火)								ヤルキッズ展覧会	ヤルキッズ制作	12/24 (木) ~ 12/29 (火)	
7/30 (木) ~ 8/4 (火)			スタッフ展							芸ギャラリー	12/31 (木) ~ 1/5 (火)
8/6 (木) ~ 8/11 (火)	高橋さん 個展	金曜町美術館(9/18,20)									1/7 (木) ~ 1/12 (火)
8/13 (木) ~ 8/18 (火)				院生展							1/14 (木) ~ 1/19 (火)
8/20 (木) ~ 8/25 (火)						クラフト 品製作 ちょっと展					1/21 (木) ~ 1/26 (火)
8/27 (木) ~ 9/1 (火)								TADJ展	早慶(9/13/20~2/6)		1/28 (木) ~ 2/2 (火)
9/3 (木) ~ 9/8 (火)			SUKENO展								2/4 (木) ~ 2/9 (火)
9/10 (木) ~ 9/15 (火)	-										2/11 (木) ~ 2/16 (火)
9/17 (木) ~ 9/22 (火)				-							2/18 (木) ~ 2/23 (火)
9/24 (木) ~ 9/29 (火)						-					2/25 (木) ~ 3/1 (火)
								プライスコレクション			3/3 (木) ~ 3/8 (火)
											3/10 (木) ~ 3/15 (火)
											3/17 (木) ~ 3/22 (火)
											3/24 (木) ~ 3/29 (火)
											3/31 (木) ~ 4/5 (火)

(出典：芸文ギャラリー活動報告資料)

資料 1-2-13 学部広報：SNS (Twitter 及び Facebook) による教育成果発信

(出典：芸術文化学部ウェブサイト)

資料 1-2-14 国際的な取り組み

提携校：パタナシン・ラハティ・プラハ・カペラゴーデン (平成 22~27 年度分集計)

国	提携大学	派遣学生	受入学生
タイ	パタナシン芸術大学	2	0
フィンランド	ラハティ応用科学大学	7	7
チェコ	プラハ美術工芸大学	6	6
スウェーデン	カペラゴーデン美術工芸学校	1	4

(出典：芸術文化学部総務課調査)

## 資料 1 - 2 - 15 公開講座・オープンクラス

公開講座	開講講座数	受講人数
平成 22 年度	11	146
平成 23 年度	12	138
平成 24 年度	10	110
平成 25 年度	9	77
平成 26 年度	6	64
平成 27 年度	8	76

オープンクラス	科目数			受講者数		
	前期	後期	計	前期	後期	計
平成 22 年度	50	47	97	8	27	35
平成 23 年度	42	33	75	10	6	16
平成 24 年度	34	25	59	4	8	12
平成 25 年度	27	19	46	6	9	15
平成 26 年度	30	24	54	8	9	17
平成 27 年度	22	31	53	8	10	18

(出典：芸術文化学部総務課調査)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ①他の専門分野が学べる融合教育の実施により、複雑化が進展する社会に対応できる、幅広い理解力と素養を持った多様で柔軟な人材を生み出す仕組みを構築している。
- ②実務経験者の活用により、卒業後の実社会の経験に基づく学生への助言、地域連携授業やプロジェクト授業の推進、就職に関する的確な相談、並びに幅広い人脈に裏打ちされた社会動向情報の提供が行える体制となっている。
- ③メンター制度を含めた多層な相談システムの効果から、学生の相談対応が充実し、安定した教育体制が構築されている。
- ④地域連携授業・プロジェクト授業の開講により、ミッションの再定義に掲げられる地域との深く実践的な関わりをもった教育体制が構築されている。
- ⑤基礎的な芸術文化知識の取得のため、芸文コア科目（芸文リテラシー、芸術文化学探究）が全教員態勢で構築され、学生の基礎的学力の向上が可能な体制を整備している。
- ⑥FD の積極的な活動による PDCA サイクルの機能により、教員の意識改革と教育の質の改善が継続的かつ的確に続けられている。特に、語学教育等の問題点を早期に認識して改善に取り組み効果を上げている。

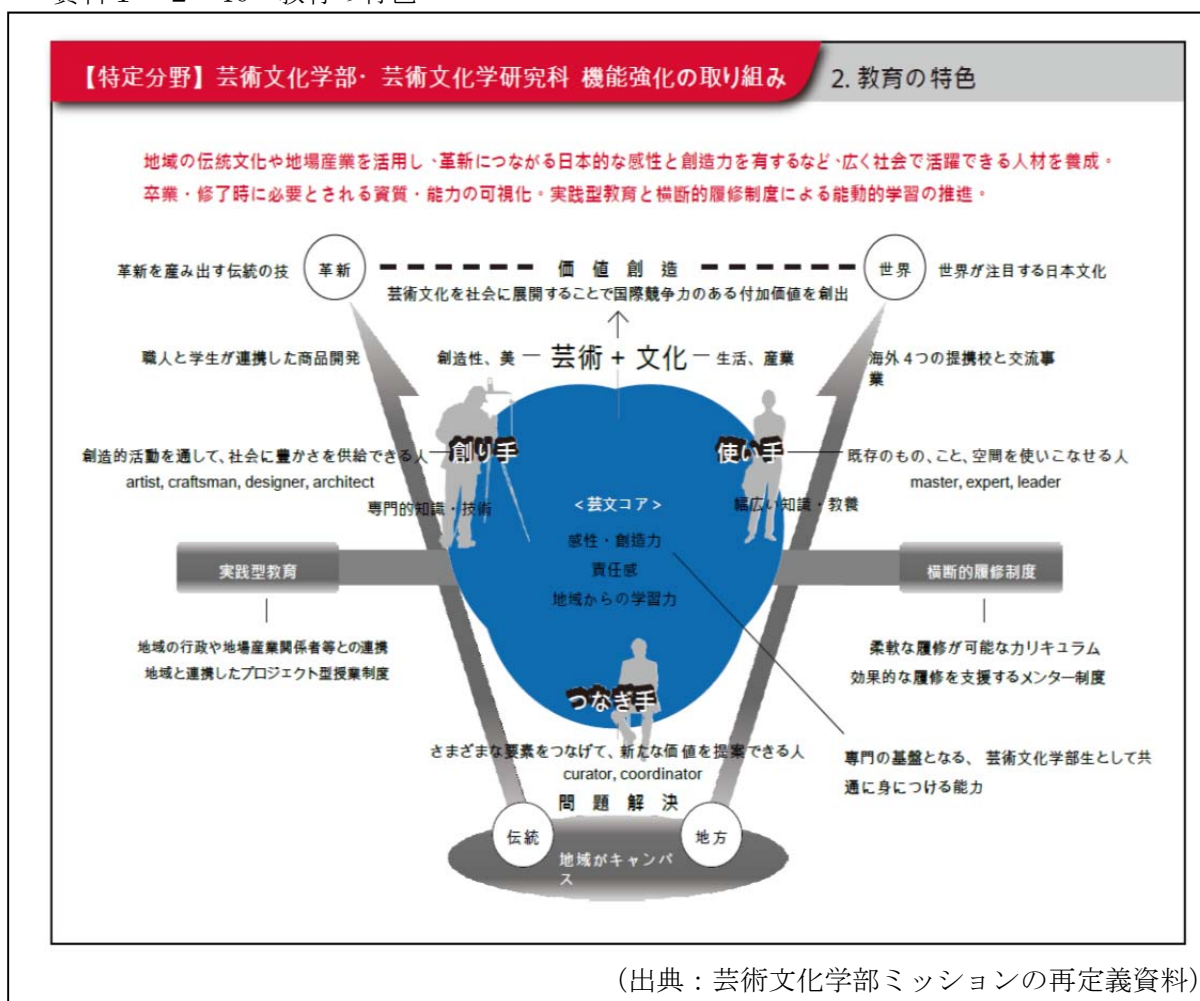


観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

本学部の教育目標に沿って、芸術文化を切り口として地域社会の中核として活躍できる人材の養成や、国際社会の場に進出できる人材の育成、あるいは21世紀の新しい芸術文化を創り得る人材の育成を目指している。教育目標の「芸術文化の『創り手』『使い手』『つなぎ手』を育成する」を達成するため、基本スキルと幅広い教養を重視した教養教育と、高い専門教育の科目群からカリキュラムが構成され、所属コースの垣根を越えて、学生自らが学びたい科目、卒業研究・制作テーマを自由に選択し、修学することができる。(資料1-2-16、17)。

資料1-2-16 教育の特色



本学部の教育課程及び履修方法等は、学部規則に基づき、授業科目は、「教養教育科目」と「専門教育科目」に区分されている。「教養教育科目」（卒業要件単位数32単位以上）と「専門教育科目」（卒業要件84単位以上）を開設している。教養教育科目は共通基礎科目、教養科目の区分ごとに、専門教育科目では、学部共通科目、基幹科目、展開科目、卒業研究・制作の区分ごとに修得しなければならない単位数を定め、「芸術文化学部 履修の手引き」に掲載して学生への周知を徹底している（資料1-2-17、18）。

資料 1-2-17 教育課程及び履修方法等

別添資料(1)による。

資料 1-2-18 卒業要件単位

区 分		卒業要件単位					
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	9単位以上	14単位以上	※ 教養教育科目から4単位以上	32単位以上	
		情報処理科目	2単位以上				
		健康・スポーツ科目	1単位以上				
		基礎ゼミナール	2単位以上				
	教養科目	人文科学系科目	4単位以上	14単位以上			
		社会科学系科目	4単位以上				
		自然科学系科目	4単位以上				
		総合科目	(注)参照				
合計		28単位以上		4単位以上	124単位以上		
専門教育科目	学部共通科目		20単位以上			※ 基幹科目、展開科目を合わせて36単位以上	※ 専門教育科目から20単位以上
	基幹科目		10単位以上				
	展開科目		10単位以上				
	卒業研究・制作		8単位				
合計		64単位以上		20単位以上			
学部共通科目		: 学部のさまざまな専門分野の基礎となる科目					
基幹科目		: 専門分野の知識や技術を体系的に学ぶ科目					
展開科目		: 基幹科目を通して得られた知識や技術をさらに深め、応用、展開する科目					
(注)総合科目2単位のみ、人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目のいずれかの分野の要件単位とすることができる。							

(出典：平成 27 年度履修の手引き (抜粋))

本学部では、ミッションの再定義により教育目標を更に明確化し、地域社会の中核として地域の伝統文化や地場産業を活用し、革新に繋がる日本的な感性と創造力を有するなど、広く社会で活躍できる人材の育成や、国際社会の場に進出できる人材の育成、あるいは 21 世紀の新しい芸術文化を創り得る人材の育成を目指している。

平成 24 年度には学部の学位授与方針(表 C)を策定し、平成 26 年度からは本方針を履修の手引きに掲載し全学生に周知を図り、学習到達度を明確化するとともに、地域の行政や地場産業の関係者と連携した実践型教育(地域連携授業)、プロジェクト授業の単位化を始め教育目標の具体化を進めている。また、芸術文化に関する学習意欲の醸成を図るため、「芸術リテラシー」を全てのコースの学生に課すと共に、芸術文化全般にわたる幅広い知識を得る「芸術文化探究」を平成 27 年度から新たに開講し、芸術文化に対する知識の習得と探究意欲の創出に務めている(資料 1-2-9、10、11)。

## 富山大学芸術文化学部 分析項目 I

教養教育科目に関しては、1・2年次を中心に4年間にわたって開設され、常に専門教育科目との連携を保つ体制になっている。専門教育科目は、1年次を中心とした学部共通科目から始まり、基幹科目、展開科目へと徐々に高度な内容へと進み、4年次には最終段階の卒業研究・制作に結実するよう配慮されている（資料1-2-17）。

こうした教育課程を学生へ分かりやすく説明するため「芸術文化学部 履修の手引き」、「シラバス」と「授業時間割」を作成している。更に、各コース別、進路希望別に履修モデル（別添資料（2））を作成して学生に配布し、この履修モデルを使い、諸学問の科目を履修して融合教育が図られるよう誘導している。また、この履修モデルを利用することにより、年度当初のガイダンスやメンター教員による助言指導が教員間のバラツキなく効果的に行われている。

また、国際社会で活躍する人材の育成を進めるため、海外4大学と交流協定を締結し、留学生の派遣や受入れ、交流展を積極的に行っている。また、協定校との相互単位認定制度も導入している。

芸術表現は、言語の壁を越えることができる非言語コミュニケーション手法であり、作品展やフォーラムを通じて国際感覚の醸成に努めている（資料1-2-19）。

### 資料1-2-19 国際交流の状況

#### ○学生留学状況

	派遣		受入	
H22 年度	ブラハ美術工芸大学	2名		
H23 年度	ラハティ応用科学大学	3名	ラハティ応用科学大学	2名
	ブラハ美術工芸大学	1名		
H24 年度			ラハティ応用科学大学	1名
			ブラハ美術工芸大学	3名
H25 年度	ラハティ応用科学大学	1名	ラハティ応用科学大学	2名
	ブラハ美術工芸大学	1名	カペラゴードン美術工芸学校	1名
			ブラハ美術工芸大学	1名
H26 年度	パタナシン芸術大学	1名	カペラゴードン美術工芸学校	2名
	ラハティ応用科学大学	1名	ブラハ美術工芸大学	1名
H27 年度	カペラゴードン美術工芸学校	1名	ラハティ応用科学大学	2名
	ブラハ美術工芸大学	1名	カペラゴードン美術工芸学校	1名
			上海大学	1名

#### ○交流協定に基づく派遣・受入実績

##### (1) <教員受入>

年度	受入先	目的	人数	期間	受入者名
H22	受入実績なし				
H23	ブラハ美術工芸大学	特別フォーラム	2	H23. 10. 31～ H23. 11. 4	
H24	パタナシン芸術大学	教員交流	5	H24. 8. 27～ H24. 8. 29	
	ラハティ応用化学大学	学生作品の相互交流展	2	H25. 1. 18～ H. 25. 1. 21	



富山大学芸術文化学部 分析項目 I

年度	受入先	目的	人数	期間	受入者名
H25	パタナシン芸術大学	交流展	16	H25. 12. 3～ H25. 12. 4	
	ラハティ応用化学大学	特別講義	2	H26. 1. 28～ H26. 1. 31	
H26	受入実績なし				
H27	プラハ美術工芸大学	特別講義	1	H27. 9. 7～ H27. 9. 8	

(2) <教員派遣>

年度	派遣先	目的	人数	期間	派遣者名
H22	ラハティ応用科学大学	学生作品の相互交流展	5	H22. 11. 7～H22. 11. 9	武山 良三 渡邊 雅志 横山 天心
				H22. 11. 17～22. 11. 19	秦 正徳 高島 圭史
H23	派遣実績なし				
H24	プラハ美術工芸大学	漆工の講習	2	H24. 10. 15～24. 10. 19	林 暁 小川 太郎
	パタナシン芸術大学	相互交流展	3	H25. 3. 23～H25. 3. 27	秦 正徳 後藤 敏伸 深谷 公宣
H25	派遣実績なし				
H26	ラハティ応用科学大学	学生作品の相互交流展	2	H26. 12. 5～H26. 12. 11	内田 和美 ペルトネン純子
	プラハ美術工芸大学	大学訪問・調査	2	H27. 3. 25～H27. 3. 31	高島 圭史 松田 愛

## 富山大学芸術文化学部 分析項目 I

年度	派遣先	目的	人数	期間	派遣者名
H27	ラハティ応用科学 大学	第40回ジャパンウィーク 2015 共同展示	2	H27. 10. 18～27. 10. 26	内田 和美
					ペルトネン純子
	パタナシン芸術大 学	相互交流展	2	H28. 1. 5～H28. 1. 9	高橋 誠一
					辻合 秀一

(出典：芸術文化学部総務課作成)

中期計画では、(資料1-2-20)に示す取り組みを掲げて、教務委員会において検討し、各授業科目の性格に応じた多様な授業形態について、分野ごとに整理している。

### 資料1-2-20 授業形態に関する中期計画

・自学自習の姿勢や課題探求・問題解決能力を育成するために、少人数教育、対話型教育などを重視し、きめ細かな教育を推進する。

(出典：第2期中期計画(抜粋))

本学部では、一教員あたりの学生数は20～40人と、密度の高い充実した少人数教育を行っている(資料1-2-21)。

学部3年次以上の専門科目については、大半の演習・実習・実験が10人以下の少人数単位の教育を行っている。

また、実験実習等の補助等について、ティーチング・アシスタントの有効活用を図るための方法等についても、教務委員会において検討されている。

### 資料1-2-21 少人数教育の具体例

1年次対象の教養教育科目の中で、対象としている必修科目については、3～6クラスに分けて授業を行っている。(1クラス20人～40人程度、対象科目：イングリッシュ・コミュニケーション入門1/2、英文表現・理解A-1/2、情報処理基礎、健康スポーツ1)

(出典：芸術文化学部総務課調査)

地域と連携した実践型教育を組織的に推進するため、地域と連携したプロジェクトのうち、一定の要件を満たす取り組みを「地域連携授業」あるいは「プロジェクト授業」として、単位認定する制度を導入した(資料1-2-22)。

### 資料1-2-22 プロジェクト授業、地域連携授業に関する申し合わせ事項

1. プロジェクト授業について
  - (1) プロジェクト授業とは「特定の課題を挙げて、問題発見及び解決までの過程、手法を実践的に学ぶ授業」である。
  - (2) 教育効果が高いと考えられる実践的学習の中で、時間割に入れることの出来なかった学習実態を単位化することを目的とする。
  - (3) 当該科目は「特別講義(科目名)」として単位を与える。
  - (4) 実施を希望する教員は、「プロジェクト授業申請書」を作成し、教務委員会の承認を受ける。
  - (5) 授業担当者は、授業終了後、履修学生への調査を行い、その結果と授業内容に関する報告書を、教務委員会へ提出する。
  - (6) 地域連携授業の登録と兼ねることが出来る。
  - (7) プロジェクト授業に対して、一定額の経費を配分する。

## 2. 地域連携授業について

- (1) 地域連携授業とは、「地域の現実的な課題をテーマとした授業、地域の作家、職人、デザイナー等から指導を受ける授業等、地域の関係者と協力して進める授業」を対象とする。
- (2) 本学部の特徴を明確にするため、地域関係者と協力して進める授業を「地域連携授業」として、科目表等に明示する。
- (3) 「地域連携授業」として登録を希望する教員は、「地域連携授業登録申請書」を作成し、教務委員会の承認を受ける。
- (4) 授業担当者は、授業終了後、履修学生への調査を行い、その結果と授業内容に関する報告書を、教務委員会へ提出する。
- (5) 地域連携授業に対して、一定額の経費を配分する。

(出典：プロジェクト授業、地域連携授業に関する申し合わせ事項)

情報機器の活用については、WebCT を活用した e ラーニングにより「情報の世界」の授業が行われているほか、希望学生が英語能力試験の e ラーニング自習教材を利用できる環境を整えている。また、情報機器を活用した CALL 授業も実施されており、具体的には、「中国語読解 1」及び「中国語読解 2」の授業において、CALL システムを活用している。

その他、大学院との有機的なつながり（つままプロジェクト：H22～H26）、社会人向けプログラム（デザイン経営塾）、グローバル人材育成・キャンパスの国際化（海外提携校との連携による交流展、留学支援体制）、国際的な研究体験（海外研修旅行の実施）、多様な学びの説明（インターンシップ体制の充実）、論文指導の工夫（レポートの書き方講習会実施）、アクティブラーニング（演習、実習、学外実習の充実）、学習意欲向上方策（授業外での制作コンペ参加支援）、学習環境整備（無線 LAN 整備）、安全対策講習（機械使用安全体制充実）、生涯教育体制（オープンクラス、公開授業の充実）、高校との連携（高校との連携出前授業）などを実施している。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ① 芸文コア（芸文リテラシー、芸術文化探究）の実施による、芸術文化に関する広範で、かつ横断的な基礎知識習得の機会を提供している。
- ② プロジェクト授業・地域連携授業など、ミッションの再定義に適合した実践的な地域をフィールドとした教育機会を提供している。
- ③ 融合教育に基づく横断的カリキュラムの整備、ならびに少人数教育の実施により、学生の多様なニーズに確実に応えられる教育体制を整備している。
- ④ 協定大学との単位互換、留学プログラムを単位認定するなど、国際的な感性を養う機会を提供している。
- ⑤ 「学習・教育目標」に対する各授業科目の関与の程度、授業科目の流れを明確にし、学生自らの学習目標を設定し、必要な学習時間を確保するための履修ガイダンスを実施している。
- ⑥ 外国語科目等での学力別クラス編成など適切な授業形態が選択可能な仕組みを提供している。

以上のことから、芸術文化学部の教育方法は期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

本学部はここまで示した目標に沿って教育を実践しており、学業並びに進路においても以下の成果が挙げられている。

各年度の全体的な動向として非常に幅広い進路選択が見られ、教育目標である多様な人材を輩出していることが俯瞰できる(資料2-1-1)。

資料2-1-1 各年度進路状況(職業・産業別の就職状況、進学率、地域別就職状況)

○業種別就職状況																							
産業別	年度		平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			合計		
	性別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
農・林業										1	1											1	1
漁業																							
鉱業、採石業、砂利採取業																							
建設業		2	4	6	3		3	4	11	15	3	9	12	5	11	16	6	8	14	23	43	66	
製造業		7	21	28	7	12	19	2	13	15	2	22	24	1	17	18	2	23	25	21	108	129	
電気・ガス・熱供給・水道業							1		1		1	1								1	1	2	
情報通信業			9	9		3	3		9	9	1	5	6		7	7			10	10	1	43	44
運輸業、郵便業			2	2	1	2	3	1		1					1	1	2				3	5	8
卸売・小売業			7	7	1	12	13	2	15	17	1	6	7	5	15	20	3	10	13	12	65	77	
金融・保険業			3	3		2	2		4	4		1	1		1	1		1	1		12	12	
不動産業、物品賃貸業						1	2		2	2		2	2	1		1	2	1	3	4	6	10	
学術研究、専門・技術サービス業		5	7	12		13	17	1	9	10	2	9	11	2	3	5	1	3	4	15	44	59	
宿泊業、飲食サービス業			5	5		2	2		1	1	1	1	1	1	4	5					1	13	14
生活関連サービス業、娯楽業			4	4			1		4	4		6	6		6	6			2	2	1	22	23
教育、学習支援業			2	2		1	1		2	2	1	3	4	2		2			3	3	3	11	14
医療、福祉			2	2					1	1		2	2	1		1					1	5	6
複合サービス事業		1	1	2		1	1					1	1					1	1	1	1	4	5
サービス業						1	1		2	2		1	1		1	1		8	8		13	13	
公務			2	2	1	3	4	1	2	3	2		2	1	3	4			3	3	5	13	18
上記以外のもの																							
合計		15	69	84	19	53	72	12	76	88	12	69	81	20	69	89	14	73	87	92	409	501	

○進路状況																							
性別	年度		平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
卒業者数	20	94	114	28	77	105	19	103	122	18	100	118	25	88	113	22	92	114	132	554	686		
就職希望者数	16	72	88	22	56	78	13	84	97	12	73	85	21	72	93	15	75	90	99	432	531		
就職者数	15	69	84	19	53	72	12	76	88	12	69	81	20	69	89	14	73	87	92	409	501		
(就職率)	(93.8%)	(95.8%)	(95.5%)	(86.4%)	(94.6%)	(92.3%)	(92.3%)	(90.5%)	(90.7%)	(100.0%)	(94.5%)	(95.3%)	(95.2%)	(95.8%)	(95.7%)	(93.3%)	(97.3%)	(96.7%)	(92.9%)	(94.7%)	(94.4%)		
就職未定者数	1	3	4	3	3	6	1	8	9		4	4	1	3	4	1	2	3	7	23	30		
進学者数	2	9	11	3	10	13	2	6	8	3	10	13	2	7	9	5	12	17	17	54	71		
(進学率)	(10.0%)	(9.6%)	(9.6%)	(10.7%)	(13.0%)	(12.4%)	(10.5%)	(5.8%)	(6.6%)	(16.7%)	(10.0%)	(11.0%)	(8.0%)	(8.0%)	(8.0%)	(22.7%)	(13.0%)	(14.9%)	(12.9%)	(9.7%)	(10.3%)		
その他			0			0	1	1	2	2	5	7		2	2		1	1	3	9	12		
その他	2	13	15	3	11	14	3	12	15	1	12	13	2	7	9	2	4	6	13	59	72		

○地域別就職状況																							
地区	年度		平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			合計		
	性別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
北海道					1	2	1	1	2											2	2	4	
東北			1	1		1	1		1	1	1	1	2				1	2	3	2	6	8	
関東			12	12		8	11	2	11	13	3	14	17	5	9	14	6	16	22	19	70	89	
甲信越		1	6	7		2	2	1	6	7					1	2	3		3	3	19	22	
北陸	富山	3	26	29	11	13	24	6	26	32	2	25	27	8	24	32	2	28	30	32	142	174	
石川	3	8	11	2	10	12	1	12	13		10	10	4	8	12	2	8	10	12	56	68		
福井	1	1	2	1	1	2		1	1		2	2		2	2	1	4	5	3	11	14		
東海		2	6	8		6	7		8	8	1	4	5		9	9	2	8	10	6	41	47	
近畿		4	7	11		8	8	1	7	8	4	9	13	2	12	14		2	2	11	45	56	
中国						1	1		2	2	1	2	3					1	1	1	6	7	
四国			1	1		1	1					1	1		1	1		1	1		5	5	
九州			1	1		1	1		1	1		1	1		2	2					6	6	
外国																				1		1	
合計		15	69	84	19	53	72	12	76	88	12	69	81	20	69	89	14	73	87	92	409	501	

(出典：芸術文化学部総務課調査)

## 富山大学芸術文化学部 分析項目Ⅱ

学部学生の留年については、「卒業研究・制作内規」(資料2-1-2)により、第3年次末において、修得した科目及び単位数が修得基準に達しない場合は、卒業研究・制作に着手できない旨が定められており、当該内規は「芸術文化学部 履修の手引き」にも掲載し、学生に周知している。

なお、留年者、退学者等の状況は(資料2-1-3)のとおりである。

### 資料2-1-2 卒業研究・制作内規

(卒業研究・制作を行う者)

第1条 卒業研究・制作を行う者は、次の各号に該当する者でなければならない。

(1) 3年以上在学した者。〔交流協定校への留学期間は在学期間を含む〕

(2) 教養教育科目24単位以上及び専門教育科目60単位以上の合計90単位以上を取得した者。

ただし、卒業要件外科目は単位数に含まれない。

(以下略)

(出典：芸術文化学部卒業研究・制作内規(抜粋))

### 資料2-1-3 各年度留年者、退学者状況

	留年者数	退学者数
平成22年度	21	6
平成23年度	18	3
平成24年度	21	2
平成25年度	18	9
平成26年度	22	5
平成27年度	26	3

(出典：芸術文化学部総務課調査)

学生の受賞歴については、国内外の様々なコンペ・コンクールにおいて受賞しており、実践的な教育システムの成果が表れている(資料2-1-4)。また、国家資格の受験要件についても毎年安定的に受験資格保有者を輩出している(資料2-1-5)。

### 資料2-1-4 学生の受賞数

年	国際規模		全国規模		地方規模	
H 2 7	STUDENT STARPACK PACKAGING DESIGN AWARDS 2015	大賞(ゴールド)	映像表現・芸術科 学フォーラム2016	CG-ARTS人 材育成パ ートナー 企業賞	とやまビジネスブ ランコンテスト	優秀賞
	STUDENT STARPACK PACKAGING DESIGN AWARDS 2015	入賞(ブロンズ)	土木デザイン設計 競技「景観開花。 2015」	優秀賞(次 席)	tamago展	最優秀賞
			第2回石州和紙デ ザインコンペ	石州和紙 組合賞		
			第89回国展	奨励賞		
		2件		4件		2件

富山大学芸術文化学部 分析項目Ⅱ

年	国際規模		全国規模		地方規模	
H 2 6			映像表現・芸術科学フォーラム 2015	映像発表 最優秀賞	第18回とやま木造住宅設計コンペ	優秀賞
			第22回アイリス生活用品デザインコンクール	佳作		
			グッドデザイン賞 2014	グッドデザイン賞	越中アートフェスタ 2014	優秀賞・ 県文化振興財団賞
			工芸都市高岡 2014クラフト展	奨励賞	日本パッケージデザイン展 2014 とやま	特別賞
			4件		3件	
H 2 5			映像表現・芸術科学フォーラム 2014	優秀研究 発表賞	平成25年度日本図学会中部支部冬季例会研究発表会	奨励賞
			土木デザイン設計競技「景観開花。X」	最優秀賞	信州デザインデイズ 2013	学生最優秀賞
			高岡クラフトコンペ 2013	奨励賞	tamago 展	最優秀賞
			第87回 国展	奨励賞	tamago 展	優秀賞 (3名)
			歴史的空間デザインコンペ	最優秀賞		
			5件		6件	
H 2 4	STARPACK award competition 2012	大賞(ゴールド)	グッドデザイン賞 2012	グッドデザイン賞	日本図学会中部支部2012年度冬季例会	奨励賞
					エコリンク事業 5周年記念ロゴマーク公募	最優秀賞
					2012 サンテンショップデザインコンペティション	優秀賞・ 土田義郎賞
					第16回とやま木造住宅設計コンペ	優秀賞
					越中アートフェスタ 2012	大賞(1名)
					越中アートフェスタ 2012	優秀賞 (2名)
					越中アートフェスタ 2012	奨励賞
	1件		1件		8件	

富山大学芸術文化学部 分析項目Ⅱ

年	国際規模		全国規模		地方規模	
H 2 3			おおしま国際手づくり絵本コンクール 2011	奨励賞	富山銀行新通帳デザイン・コンペティション	グランプリ
					平成23年度日本図学会中部支部秋季例会 研究発表会	奨励賞
					越中アートフェスタ 2011	優秀賞 (2名)
					越中アートフェスタ 2011	奨励賞
					越中アートフェスタ 2011	佳作 (1名)
					第51回富山県デザイン展	最優秀賞
					第51回富山県デザイン展	奨励賞
					第17回北陸の家づくり設計コンペ	優秀賞
					2011 とやまパッケージデザインコンペティション	特別賞
				1 件		10 件

(出典：芸術文化学部総務課調査)

## 資料 2 - 1 - 5 資格（受験資格）取得状況

## ○教員免許取得状況

取得年度	1種免許状	
	中	高
H22	7	9
H23	16	21
H24	22	23
H25	8	8
H26	5	5
H27	12	12

## ○学芸員資格取得者数（卒業年度別）

卒業年度	取得者数
平成 22 年度卒	20 名
平成 23 年度卒	12 名
平成 24 年度卒	16 名
平成 25 年度卒	3 名
平成 26 年度卒	9 名
平成 27 年度卒	7 名

## ○一級建築士受験資格（卒業年度別）

卒業年度	受験資格保有者数
平成 22 年度卒	10
平成 23 年度卒	11
平成 24 年度卒	16
平成 25 年度卒	18
平成 26 年度卒	15
平成 27 年度卒	15

(出典：芸術文化学部総務課調査)

本学部は、学部、大学院の学生に対して授業ごとに授業評価、学習達成度に関するアンケート調査を実施し、大学が編成した教育課程・授業を通じて、大学の意図する教育の効果があつたと学生自身が判断したかどうかの確認を常に行っている。

また、卒業（修了生）予定者に対するアンケート調査も実施し、継続的な効果についても調査を行っている（資料 1 - 2 - 8）。



## 富山大学芸術文化学部 分析項目Ⅱ

学生による授業評価、学習達成度に関するアンケートでは、授業目標の理解・授業紹介との対応、学習に対する学生自身の取り組み、大学・授業の意図する教育の理解、更に教員の説明と内容理解度などに関する調査をしている。例えば、平成27年度前期の授業アンケート調査における総合的満足度に注目し分析すると、全学のスコアの総計を回答数で割った値は、5点満点に対して4.1点となっており、満足が23%、やや満足が69%であり合計が90%を越えていることから学生の満足度はかなり高いことがわかる（資料2-1-6）。

資料2-1-6 授業アンケート

Q.15 総合的に判断して、この授業に満足しましたか							
選択肢	不満	やや不満	中立	やや満足	満足	平均値の平均	
平均値	～1.5	～2.5	～3.5	～4.5	4.5～		
全体	0	1	10	97	32	4.1	
	0%	1%	7%	69%	23%		
学年別	1年	0	0	3	39	6	4.1
		0%	0%	6%	81%	13%	
	2年	0	0	4	35	11	4.1
		0%	0%	8%	70%	22%	
	3年	0	1	5	30	14	4.1
		0%	2%	10%	60%	28%	
	4年	0	0	1	2	5	4.3
		0%	0%	13%	25%	63%	
授業規模別	10人未満	0	0	1	7	11	4.4
		0%	0%	5%	37%	58%	
	10人以上	0	1	0	24	15	4.3
		0%	3%	0%	60%	38%	
	20人以上	0	0	7	46	6	4.0
		0%	0%	12%	78%	10%	
	50人以上	0	0	2	20	0	3.9
		0%	0%	9%	91%	0%	
学部別	芸術文化	0	1	10	96	33	4.1
		0%	1%	7%	69%	24%	
	造形芸術	0	0	2	31	6	4.1
		0%	0%	5%	79%	15%	
	デザ工芸	0	0	4	44	21	4.1
		0%	0%	6%	64%	30%	
学科別	デザ情報	0	0	8	39	13	4.1
		0%	0%	13%	65%	22%	
	建築デザ	0	1	5	29	3	3.8
		0%	3%	13%	76%	8%	
	文化キュレ	0	0	5	30	3	4.0
		0%	0%	13%	79%	8%	

(出典：H27年度前期授業アンケート集計結果)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ①建設業から情報産業、サービス業、その他非常に幅広い業界への就職がなされている状況から、本学部の教育目標に基づく特色ある教育システムにおいて、教育の成果や効果が上がっていると判断する。
- ②学生による授業評価、学習達成度に関するアンケート調査結果が示すように、授業目標の理解・授業紹介との対応に関しては、高い割合で、教育効果が得られたと学生自身が判断している。また、教員の説明・内容の理解に関しても、そのアンケート調査結果が示すように学生が満足している。更に、総合的満足度に関しても、おおむね高く、大学が編成した教育課程・授業を通じて、大学の意図する教育の効果があったと学生自身が判断していると考えられる。
- ③学生によるコンペ等の受賞数が、地域レベルから全国・国際レベルへ増加している。地域だけでなく広く国内や世界に挑戦できる教育成果を上げていると判断できる。
- ④教職免許、学芸員、一級建築士受験資格については、年度ごとの上下動はあるものの、資格取得は安定している。

以上のことから、芸術文化学部における学業の成果は期待される水準にあると判断する。

**観点 進路・就職の状況**

(観点に係る状況)

本学部が目的目標としている人材像は、芸術文化を切り口として地域社会の中核として活躍できる人材や、国際社会の場に進出できる人材、あるいは21世紀の新しい芸術文化を創り得る人材である。

本学部の進路・就職支援体制としては大変充実している。入学年次から始まる「キャリアガイダンス・就職関連講座」では、芸術文化やビジネスの様々な分野で活躍する卒業生からプロフェッショナルな話を聞き、仕事に対するイメージを固め、3年生では、具体的な就職活動を視野に入れたガイダンスを頻繁に開催している。また、講座やガイダンスと並行して、指導教員、キャリアカウンセラー、ハローワーク学卒ジョブサポーターなどが加わり、マンツーマンの進路指導を実施している。

このような万全の支援体制の下で、高い就職率とともに卒業生の大部分が自分の希望する進路を実現している。特に、本学部で身に付けた学力、資質、能力を生かし、家具、文具、装飾、広告、出版、印刷、映像、web、建築、建設、環境、インテリア、設備、資材、住宅メーカーや伝統工芸の承継を目指す者も多数輩出していることから、就職、進学についても十分な実績が上っている。このことについては、卒業生等の概ね70%以上が学部教育に対し肯定的な評価をしており、成果が出ていることがわかる(資料2-2-1、資料2-1-1)。

資料2-2-1 卒業生等へのアンケート結果

卒業生アンケート集計報告		芸術文化学部
1. 回収数及び回収率		
平成25年3月卒業(19/116)人	16.4 %	
平成24年3月卒業(22/122)人	18.0 %	
平成23年3月卒業(23/105)人	21.9 %	
計(66/343)人	19.2 %	
2. 集計結果(学位授与方針に対応した質問のみ)		
1. 豊かな社会の発展に寄与するものやことを創り出す能力を身に付けることができましたか。		
	回答数	回答率
1. おおいに身に着けた	15	22.7
2. すこし身に着けた	32	48.5
3. すこししか身に着けられなかった	16	24.2
4. まったく身に着けられなかった	3	4.5
そのような能力を育む学部の教育は、充実していましたか。		
1. たいへん充実していた	16	24.2
2. すこし充実していた	40	60.6
3. あまり充実していなかった	8	12.1
4. まったく充実していなかった	2	3.0
2. 問題を発見し、調べ、解決策を見だし実践できる能力を身に付けることができましたか。		
1. おおいに身に着けた	11	16.7
2. すこし身に着けた	40	60.6
3. すこししか身に着けられなかった	12	18.2
4. まったく身に着けられなかった	3	4.5

そのような能力を育む学部の教育は、充実していましたか。

1. たいへん充実していた	16	24.2
2. すこし充実していた	39	59.1
3. あまり充実していなかった	7	10.6
4. まったく充実していなかった	4	6.1

3. 外国語の読み書き及び伝達能力と他者の考えや異文化の理解、多様な情報を取捨選択し分析・活用できる能力を身に着けることができましたか。

1. おおいに身に着けた	1	1.5
2. すこし身に着けた	17	25.8
3. すこししか身に着けられなかった	27	40.9
4. まったく身に着けられなかった	21	31.8

そのような能力を育む学部の教育は、充実していましたか。

1. たいへん充実していた	6	9.1
2. すこし充実していた	24	36.4
3. あまり充実していなかった	28	42.4
4. まったく充実していなかった	8	12.1

4. 自然・社会・文化・人間についての教養を身に着けることができましたか。

1. おおいに身に着けた	15	22.7
2. すこし身に着けた	36	54.5
3. すこししか身に着けられなかった	14	21.2
4. まったく身に着けられなかった	1	1.5

そのような教養を育む学部の教育は、充実していましたか。

1. たいへん充実していた	17	25.8
2. すこし充実していた	34	51.5
3. あまり充実していなかった	13	19.7
4. まったく充実していなかった	2	3.0

有効回答数（未記入や無効回答を除いた数） (64)

5. これからの社会における芸術文化の調和的発展に貢献できる能力を身に着けることができましたか。

1. おおいに身に着けた	7	10.9
2. すこし身に着けた	35	54.7
3. すこししか身に着けられなかった	17	26.6
4. まったく身に着けられなかった	5	7.8

そのような能力を育む学部の教育は、充実していましたか。

1. たいへん充実していた	12	18.8
2. すこし充実していた	41	64.1
3. あまり充実していなかった	6	9.4
4. まったく充実していなかった	5	7.8

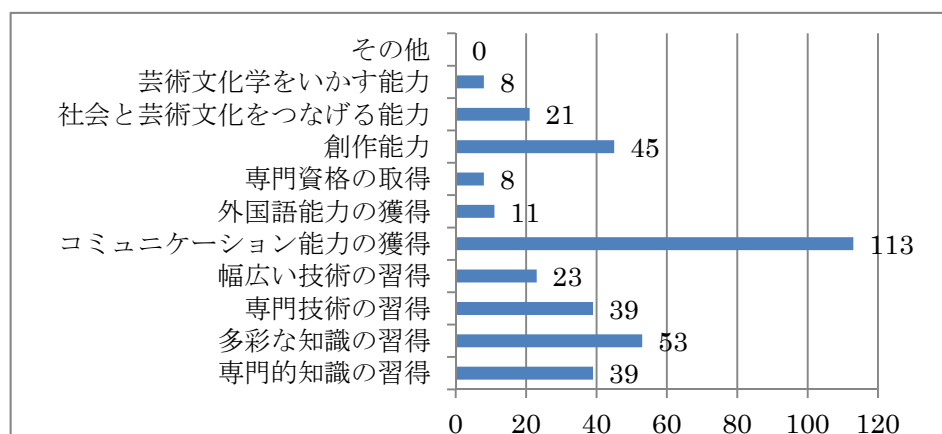
(出典：芸術文化学部総務課作成)

## 富山大学芸術文化学部 分析項目Ⅱ

本学部では、中期計画に「教育の成果及び効果の検証を、学生（卒業生を含む。）の視点、教員の視点、企業等の視点、地域の視点など、さまざまな視点から行うとともに、大学教育に対する社会の要請・要望を調査・分析し、本学の教育目標と社会的要請の整合性を確保する」ことを掲げ、在学時に身に付ける学力や資質・能力について調査するための定期的なアンケート調査や情報収集など様々な取り組みを行っている（資料2-2-2）。

資料2-2-2 企業アンケート（H28.2実施：回収113社）

### ○企業が学生に期待する能力（複数回答可）



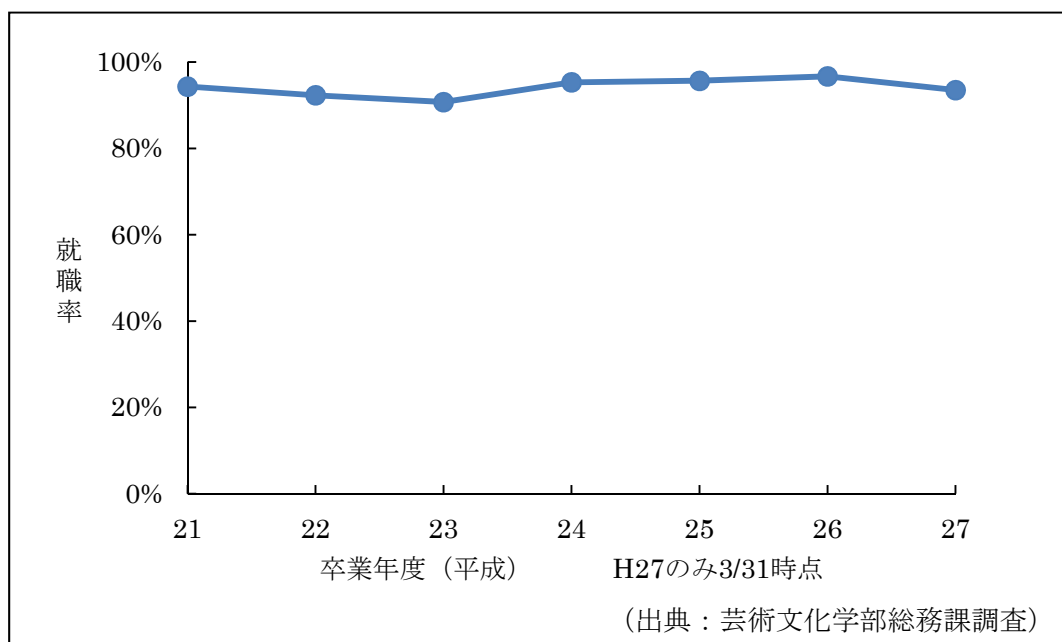
### ○企業として採用したい学生像

	1位	2位	3位	4位	5位	その他	ポイント
主体的	17	16	7	7	3	7	187
協調的	14	18	13	10	15	14	216
保守的	0	0	0	0	0	0	0
革新的	1	5	2	3	3	3	40
楽観的	0	0	0	1	5	1	7
客観的	0	1	1	0	1	0	8
積極的	17	14	22	12	8	14	239
目標達成的	2	6	9	4	5	7	74
活動的	2	5	4	9	9	6	69
個性的	1	0	0	4	0	2	13
独創的	0	2	1	2	2	1	17
意欲的	21	9	13	14	12	14	220
自立的	3	4	3	7	9	2	63
倫理的	2	0	1	2	1	0	18
柔軟な	2	7	11	15	8	10	109
勤勉な	2	5	6	3	7	7	61
素直な	21	14	12	8	11	11	224
礼儀正しい	8	7	9	11	10	9	127

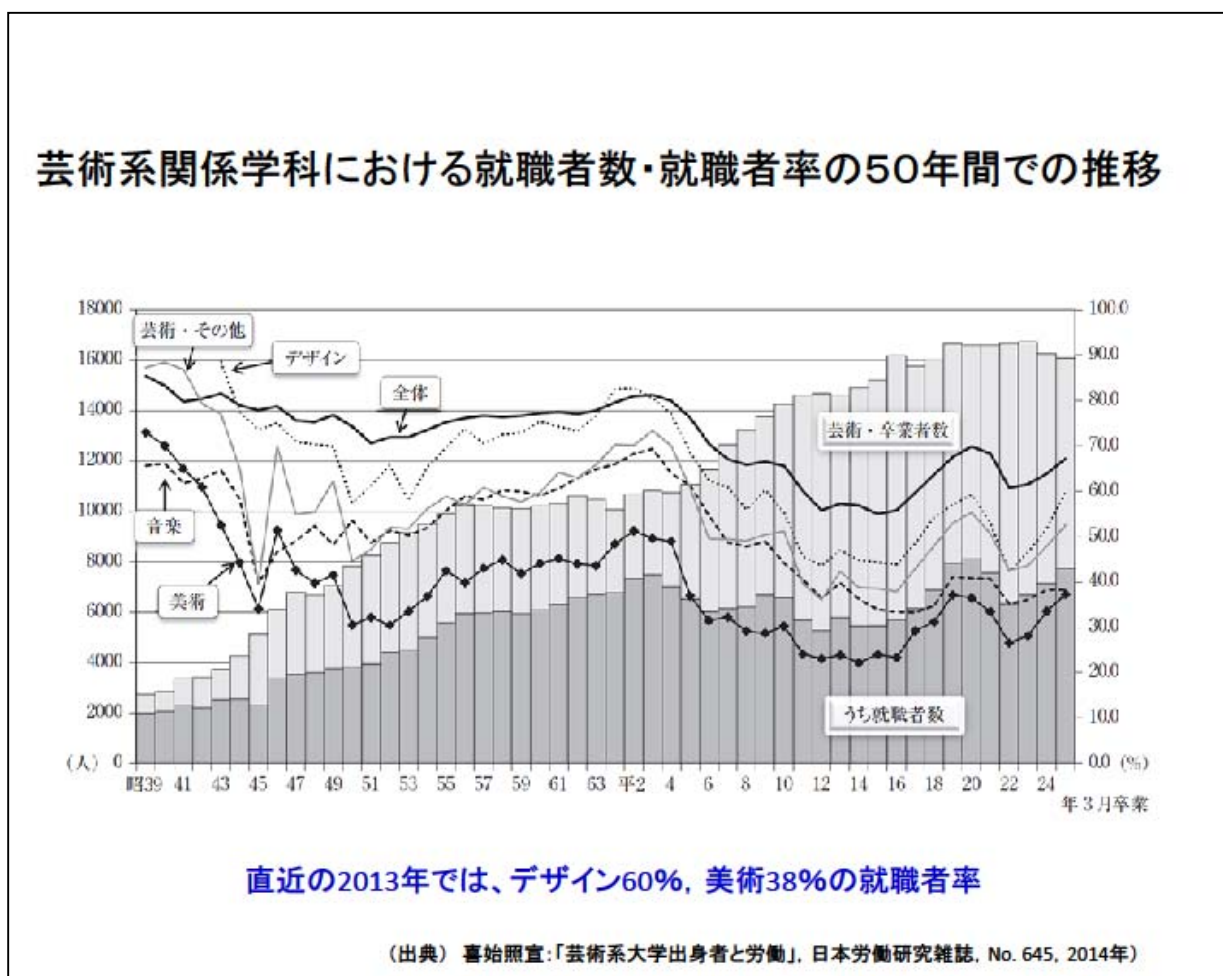
（出典：芸術文化学部総務課調査）

なお、本学部は、一般芸術系大学の30～60%の就職率と比較して90%を超える非常に高い就職率を安定して獲得している（資料2-2-3、4）。

資料2-2-3 過去7年間の就職率の推移



資料2-2-4 芸術系関連学科における就職者率の推移



(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ①卒業生の教育に対する満足度は高い水準で維持しており、更に不満足度にも低下傾向がみられる。
- ②企業からはコミュニケーション能力・多彩な知識・創作能力のある学生が求められているが、卒業生から創り出す能力・問題解決能力などを評価されており、整合性が取れている。
- ③他大学の芸術系学科と比較して、非常に高い就職率を維持している。

以上のことから、芸術文化学部の進路・就職の状況は期待される水準にあると判断する。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

以下の点において、第一期と比べ質の向上が見られる。

- ① 芸文コア（芸文リテラシー、芸術文化探究）を新たに導入した
- ② FD研修の継続的な実施と、アンケート結果のフィードバックを教育課程に反映させた
- ③ プロジェクト授業及び、地域連携授業を新たに制度化し、実践的教育を発展させた
- ④ 海外提携大学との間で相互の交流展を開始した

いずれも、第一期には実施していなかった内容であり、明らかに教育の質の向上が確認できる。また、継続的に実施しているメンター制度、高い就職率、留学生の継続的輩出、教員の高い実務経験者率等、安定した教育活動を継続して実施している。

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

以下の点において、第一期と比べ質の向上が見られる。

- ① 公募展・コンクール等における受賞者数の増加（資料3-1-1）  
特に、地域レベルから脱却し、全国レベル・世界レベルでの受賞が増加している。
- ② 就職率が非常に高いレベルで安定（資料2-2-3）
- ③ 学生の不満足度を減少させる教育体制の構築（資料3-1-2）
- ④ 受け入れ留学生数の安定的推移（資料1-2-19）

いずれも、第一期と比較して成果が拡大していることがわかる。以上のことから、教育水準の向上があったと判断する。

資料3-1-1 学生受賞者数の変化

	年度	世界レベル	全国レベル	地方レベル
第一期	H21年度	0	0	4
第二期	H22年度	0	1	10
	H24年度	1	1	8
	H25年度	0	5	6
	H26年度	0	4	3
	H27年度	2	4	2

H22年度はデータなし

(出典：：芸術文化学部総務課調査)

資料3-1-2 卒業時アンケート結果における教育不満足度の比較 (%)

		教養教育				専門教育			
		やや不満足	不満足	合計	平均	やや不満足	不満足	合計	平均
第一期	H21	20	8	28	28	16	5.3	21.3	21.3
第二期	H22	22.1	6.3	28.4	17.2	10.5	3.2	13.7	12.3
	H23	14.1	0	14.1		11.5	0	11.5	
	H24	15.4	0	15.4		5.8	3.8	9.6	
	H25	10.5	1.8	12.3		10.5	1.8	12.3	
	H26	21.4	2.7	24.1		13.4	2.7	16.1	
	H27	8	0.9	8.9		9.8	0.9	10.7	

(出典：：芸術文化学部総務課作成)